

対策必要111カ所中27カ所実施

埼玉県八潮市で発生した下水道管の破損が原因とみられる道路陥没事故を受け、全国でも下水道の管渠の調査が始まっています。日田市も4日から目視の点検を始めます。下水道の管渠の調査について市から聞き取りをしました。

日田市は4日から、中心部にある主要幹線やマンホール付近などを職員を配置して数日かけて調査をします。

日田市の下水道管

市の下水道管は、大都市部のような大きなものでなく、国道や中心部の主要幹線でも最大直径が1メートル程度のコンクリート管です。あとは20cmから30cmの腐食に強い塩化ビニールの管です。下水道管の一般的な耐用年数は50年と言われています。

日田市は、下水道の供用開始(昭和56年、1981年)してから50年以上の老朽管はまだありませぬ。40年以上の管は65キロあります。

計画的に点検調査を実施

下水道も平成27年(2015年)に長寿命化計画を作り、計画にもとづいてインフラの点検に取組んできましたが、新たに令和元年(2019年)に公共施設維持管理のストックマネージメント計画をつくり、調査をしています。下水道法に基づき、腐食の度合いが大きいと思われるところや段差のあるところ等15カ所については5年に1回調査していますが、問題は無いという状況です。

市は計画に基づき、市内の下水道区域を、20年かけて1順する調査点検の取り組みをしています。令和2年から令和4年の3年間にかけて調査した結果、調査した部分のコンクリート管は問題なく、マンホールのふたなど改善が必要となった111カ所について、令和5年に27ヶ所改善をしたとのこと

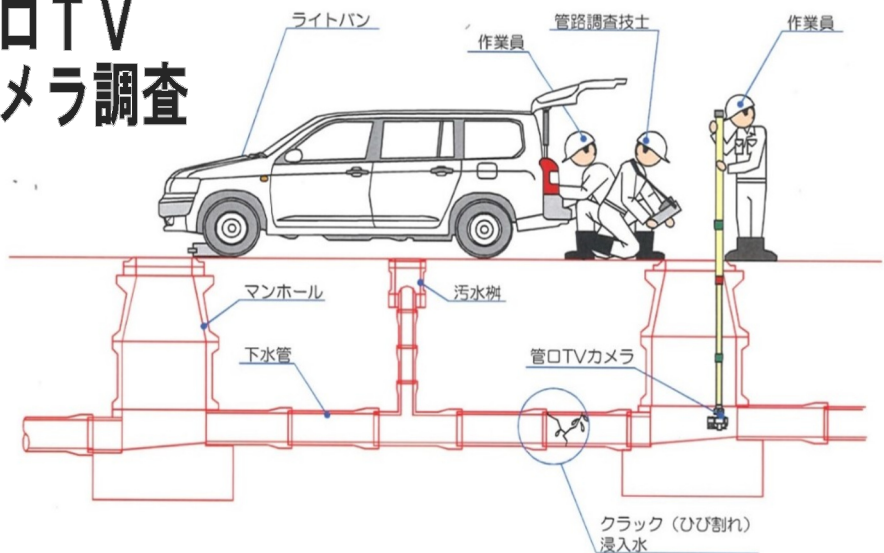
下水道管の点検計画と実施の状況

調査の方法は、管口カメラの使用が多く、場所によっては自走式のテレビカメラを使用する箇所もあります。老朽化対策として、コンクリート管の場合は、管内で発生する硫化水素がコンクリート管を痛めるので、下水管の寿命を伸ばすために、管の内側をコーティングする方法などいくつかあります。



調査には費用がかかります。令和5年度では1430万円使用し、国の補助率は50%です。インフラの維持管理にも国の補助率の引き上げや増額が求められます。

管口TVカメラ調査



本管TV調査

